

タイトル：チャレンジャーレコーディングボックス（通称どこでも BOX-P³）

今回のこの曲が生まれたエピソードをお聞きして悪い浮かべたのは、3人が中田さんと出会った頃の映像でした。そこにあったのは、中田さんの隠れ家のような自宅のコンパクトなサウンド創作空間と、まるで電話ボックスのようなレコーディングルーム。サウンドプロデュースの方法がそのBoxの中で椅子に座り、あえてチャラを抜いて歌を録音すると言う、中田さん独自の創作スタイル。この電話Box型のレコーディングルームの活や映像が、とても印象的だったので、強く記憶に残っていました。

裏の中で、このレコーディングBoxがこのベストアルバムでのP3のタイトルとも重なりまさに特別な「キュー（立方体）」に思えました。

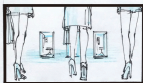
それは、まるでドラえもん「どこでもドア」のように世界へと繋がっている特別なBoxで、ゼップ、武道館、東京ドーム、カンヌ、SXSWそして、コーチェラへと、どんどん無邪気に広がって行った、未来への乗り物のだ！と思ったのです。（不動の名曲、エレクトロワールドもポリリズムもこのBoxで生まれたのですから…）

そこでPVの映像案として考えたのは、透明な素材で出来たこのどこでもBoxに三人が乗って時空を旅するSTORYです。



オープニングシーン

真っ白な空間に3台の透明のレコーディングBox。そこから少し離れた所でパソコンを操作する中田氏。中田さんをオープニングで出演していただきたい！です。（OK GoのPVでPerfumeがチャリと出演したイメージで…）背中を向けて何も言わずに、ただパソコンを操作している中田さん。カカカタ…、とキーボードの音だけが響く…。こんな感じで出演する中田さん…。いいと思うのですが…。※



イントロと共にフレームの外から三人がBoxに向かって登場…（ゲームツアーのゲームのハイビル映像のイメージングです。これまでのPerfumeのアーカイブ映像的なシーンをたくさん入れたいです。）イントロの時間を使って扉を開き、静かに椅子に座る。



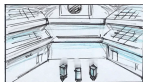
We are challenger We are challenger ~ ボーカルと共に口もとのアップのカット



♪〜♪〜そのあとの曲の流れと共に、Boxの外へ、そしてダンスへ



曲の流れと共に、再びBoxの中へ。眩しい閃光と共に（FPアルバムジャケットのイメージ）時空を超えるどこでもBox！



ゼップや武道館、東京ドームなど、これまでの節目となる空間に降り立つBox。



その間に入るダンスのカットは、白い空間（後ろから光を…くらい）で、出来るだけシンプルな映像が希望です。3人だけをセンターアングル、カメラ固定で指先や髪の毛の動きなど3人の細部の映像を真っ直ぐに見せたいです。



エンディング

このPV撮影をしているスタジオのカメラフレームの外にいるMIKIKO先生の後ろ姿。撮影の終了とともに、先生に駆け寄る3人。オープニングと同じく、チームを代表して、中田さん先生にも後ろ姿で出演していただきたいです！（もしくは、間監督をはじめスタジオにいる全てのスタッフが拍手で3人を迎える映像など、チームの皆さんが参加すべきPVだと考えます。）